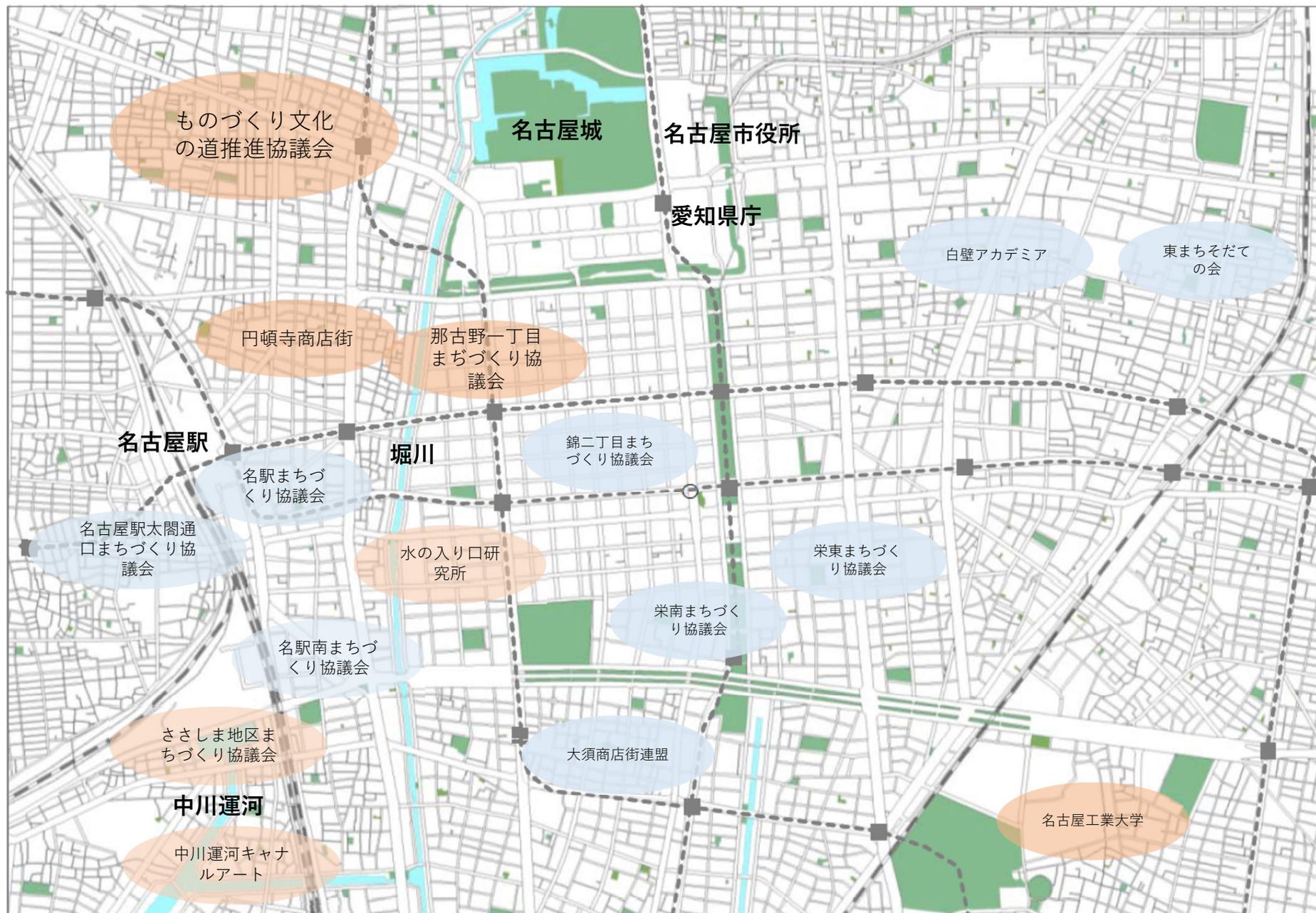


1. 次年度以降名古屋市内における地域まちづくり団体との連携

各拠点間移動を目的とした、人材育成、交通コーディネータの育成を継続する。
今年度、人材育成ができたまちづくり団体では、その人材をモデルとして、各まちづくり団体の講師として派遣する。

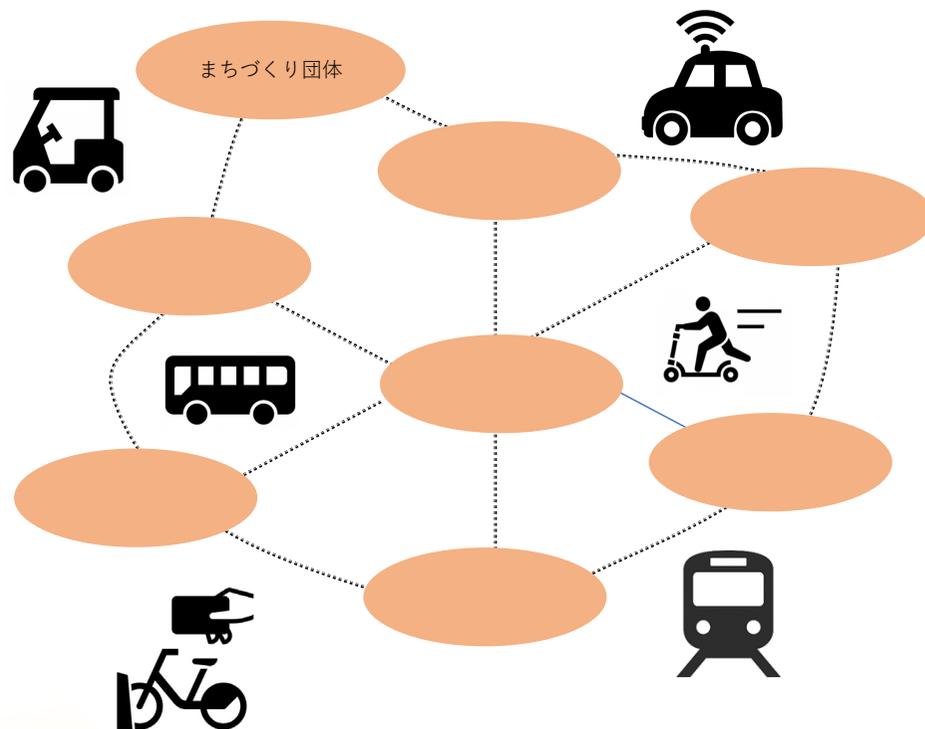
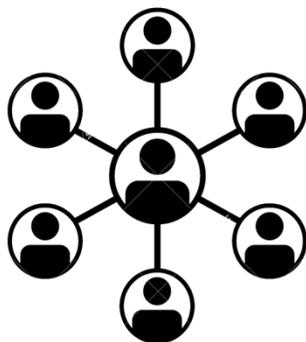
令和5年度共創モデル実証プロジェクト対象まちづくり団体（予定）

令和6年度対象予定まちづくり団体



2. 回遊性向上による地域が一体となった魅力発信力の強化へと「好循環」

まちづくりの担い手を獲得し育成することで、団体相互の共創と、それによる地域性の高い、きめ細かい交通インフラの創出（リ・デザイン）を促進し、回遊性向上による地域が一体となった魅力発信力の強化へと「好循環」を生み出す。



個々のまちづくり集団が身近なところからまちづくりリーダーを育成するために

まちづくり人材としての活躍場所を認識させ、行動力、発想の柔軟性、コミュニケーション能力、イベント等の企画立案能力、合意形成能力を習得させる。

他団体との連携による発信力の強化、そのための回遊性の向上策の必要性の議論を深める。

共有・深化するための地域共創シンポジウムへと発展させ、継続することでローカル交通インフラの創出（リ・デザイン）に向けた解決策を見出していく。

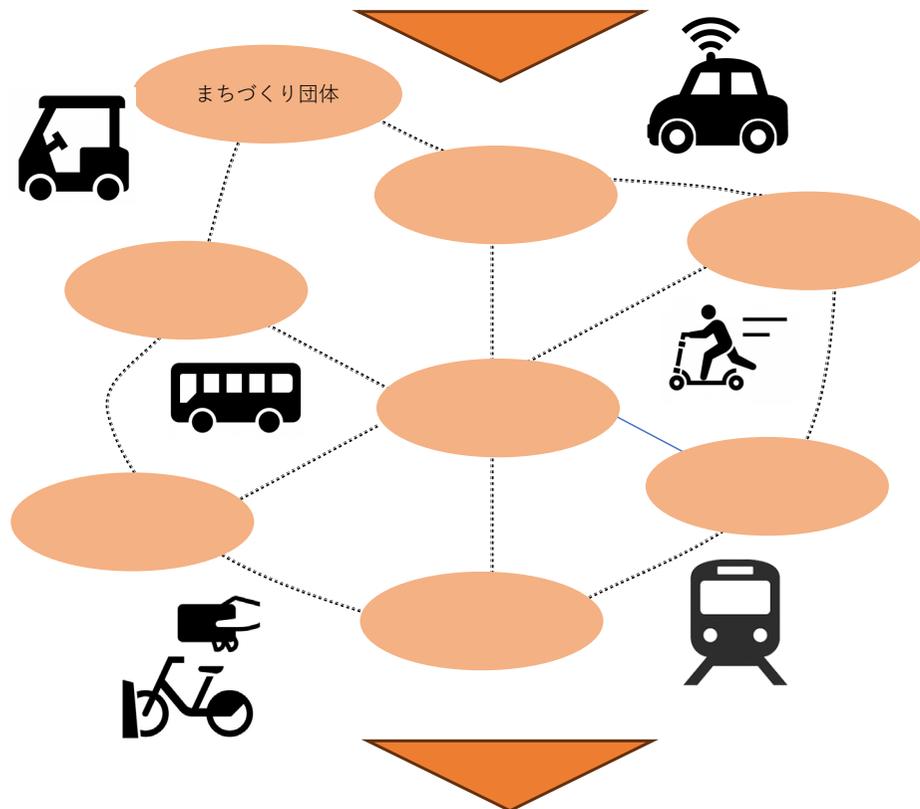
人材不足解消

共創力強化

好循環シナリオ

3. 人材育成での課題・リデザインに向けての問題

地域内での各移動に関しては、今回の事業でそれぞれが取り組むべき課題を出し、交通人材を育成しカリキュラムを作成することができた。次年度はこのカリキュラムに則り継続的な育成活動をすすめていく。



一方で、各団体同士をつなぐラストワンマイルのための活動が具体化できなかった。次年度は、各地域内での人材育成と、団体同士での連携強化の深堀を進めていく。